

国
語

令和七年度入学試験問題

受験上の注意

- 一、監督の指示により、受験する科目の解答用紙を使用してください。
- 二、解答用紙に受験番号（算用数字）、氏名、フリガナを記入し、受験番号および該当する試験日をマークしてください。記入については解答用紙の注意事項に従ってください。
- 三、問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
- 四、国語の問題は、選択問題があるので、下記の【表】の指示に従い解答してください。
- 五、国語の問題は、二～四十ページにあります。試験開始の合図があったら、まずページ数を確認してください。
- 六、試験時間中は、受験票を机上の受験番号の下に呈示しておいてください。
- 七、質問、その他用件があるときは、手を挙げて合図してください。
- 八、試験時間中の退場は認めません。
- 九、試験時間は六十分です。
- 十、この問題冊子は持ち帰ってください。

開始の合図があるまで開かないでください

～．

【表】 下記の印に従って解答してください。

	共通問題	一	二	選択問題	三		
		(現代文)	(現代文)		ア (現代文)	イ (古文)	ウ (漢文)
○印… 必答 △印… いずれか一つ を解答してください							
全学部		○	○		△	△	△

一次の文章を読み、後の問に答えなさい。

茶碗ちやわんでは、よく「手取りてどり」ということばを使う。わかったようでわからないことばのひとつだろう。説明は少しむずかしい。

あるとき、ある場所で、ある茶碗の話をしている。「手取りが意外に軽いものですよ」というと、そばで聞いていたひとりから「手取りってなんですか」と訊きかれたことがある。「給料の手取りならわかるけど」とそのサラリーマン氏にいわれて「なるほど」と納得した。(注1)『大辞泉』をひいてみると、たしかに「給与などから税金その他を差し引いた、正味の受取金。」A「というのが第一義で、やきもの、とくに茶碗の鑑賞で使う「手取り」というのは出ていない。

やきものに関して「手取りが重い」とか「手取りが軽い」とかいうとき、それは文字どおり手に取ったときの感じ、とくに重量に関わる表現である。しかし、たんなる重さというなら、ただ「重い」「軽い」ですむ。わざわざ「手取り」というのは、それが視覚と結びついた相対的な重量感覚の表現だからである。(1)ということは、このことばが使われるとき、話し手には、手に取るうとする器に対して、意識的にせよ無意識的にせよ、重さの予測があるということにはかならない。そして、その予測は経験(2)に裏打ちされた視覚を通じてもたらされるものであるが、同時に対象の器が手で持たれるものだという暗黙の前提がある。

一般的にごつごつした堅そうな形、暗色系の色彩、分厚い造りなどは、重そうな印象を与えることが多いであろう。逆にサクサクした表面や明るい色、薄い造りなどは軽さを予想させる。(注2)しかし白い器でも、磁器質(注3)のものは陶器質や土器質のものに比べて重いということを経験的に知っている人は、白磁(注3)の肌からある程度の重量に関する情報を引き出すにちがいない。こうして人は手に取る前に対象の重さを予測し、その予測にふさわしい力を手に込めて器物を持ち上げる。そのときの予測と実感の差の感覚が手取りの軽さであり、重さであるといえる。

手取りの感覚は、誰しももっているにちがいない。しかし、このような所作、感覚は仏像(注4)やミロのヴィーナスやピエタなどを鑑賞するときヒトの意識にのぼることはまずない。このことばが最も重視される機会は、おそらく茶碗を直に鑑賞するときである。茶碗が目の前に出されると、人はその茶碗の重量を無意識のうちに測っているのである。それは、茶碗は手に取るものだという多(3)

くの日本人に染み込んだ行動様式と関係がある。茶碗が茶を喫む碗であつても飯茶碗であつても汁碗であつても、通常、日本人はそれを手に取つて、内容物を食べ、あるいは飲む。こうした器を下に置いたまま中身を摂取することは無作法とされる。

日本人にとって常識であるこの習慣はしかし、かならずしも世界的にふつうというわけではない。少し気取つた洋食の席では、飲み物以外は、容器を直接口につけるといふことはない。お隣の朝鮮半島でも器物に直接口をつける食べ方は「犬の食べ方」といって嫌われる。酒や水・茶の類以外のご飯、お菜の場合、器と口との間に距離が保たれていて、箸やスプーンによつて中身が口に運ばれるのがふつうである。

こういう食事作法がそれぞれの地域でいつ生じたのかというセン^(ア)索はさておいて、とりあえず当面する話題でいえば、日本人にとつて碗は手に取るものである。とくに茶室では通常、畳の上から茶碗を取り上げなければならない。人は格別意識しなくても茶碗の重量を予測することになる。

持ち上げるのは木器でもシツ^(イ)器でも同様である。しかし、それらの場合、視覚的な重量感が裏切られることはそれほど多くない。その点、やきものは素材により、成形により、削^(注7)りにより、重量はさまざまで、個体としての器物における手取りの情報は、視覚を通じてもたらされる情報とともに、人と器を結ぶ無形の橋をなしている。

同じことが手触りにについてもいえ、指や掌^{てのひら}によつて対象を確認し、さらに唇で触れることによつて触覚を通じての認識が完了する。

わたしの少年時代、映画鑑賞は許可制で、ときどき見回りにくる教師の目を盗んでよく映画を観^みに行つたものであるが、いわゆる「洋画」では登場人物が握手、抱^(ウ)ヨウ、はては接吻^{(注8) せつぶん}と、やたらに身体接触がさかんであることにドキドキしながらも不思議な気がしたものである。昔の日本人はあまりこういうことを人前ではしなかった。

いっぽう、近ごろのペツト⁽⁵⁾の飼⁽⁵⁾い方では、これに似た光景をしばしば目にする。わたしもかつてイヌとネコを飼つていたことがあり、接吻まではしなかったが、相手の迷惑もかまわず抱きかかえたりしたものである。

こう書いてくると、いわんとしていることはおわかりであろう。そう、日本人のやきもの鑑賞法には、人と人とのつきあいや、

そのコピーとしての人とペットとの関係行動に似たところがある。このような関係における相手はもちろんヒト一般、動物一般ではなく、Bとしての⁽⁷⁾人であり、動物でなければならない。類似の関係性が日本人とある種の器物の場合に成立しているのである。

掌で茶碗を持つという行為は、^(注9)茶味^{ちやみ}ないことばでいえば、「器と人間のC」による関係」ということになる。これは絵画や彫刻など、そしてまた多くの外国で器を鑑賞するときには見られないヒトと対象の関係性である。そこには器物の擬人化という現象がある。

人間以外の対象を擬人化して認識するというのは、べつに日本人の特技ではない。機械や道具も、それが身近なものであれば、感覚としてヒトに近づいてくる。ペットになればなおさらのことで、近頃では家族として意識されることもしばしばである。これらには名前がつけられ、個体として識別される。ロボット化された機械は愛称で呼ばれ、人間化される。

右の例とは少し側面を異にするが、部分名称の擬人化ないし生物化もよく見られる現象である。口、肩、腰、足・脚などというのは、器物や機械でもふつうに使われることば群である。器物の形状表現には「尻^{しりぶく}膨ら」とか「締^{しめこ}腰」という表現もある。これはもちろん身体に関する言語の転用で、このような表現は中国でも韓国でも用いられる。英語では器物の口縁部を「⁽⁶⁾shoulder」、足・脚は「foot」だのという。手⁽⁷⁾近で普遍的なものを指し示すことばが便宜的に流用されて共通理解の橋渡しとなるのは、それこそ普遍的な現象である。

このように考えれば、日本人の茶道具に対する感覚も格別なものとはいえないであろう。しかし、やはりそこには、⁽⁸⁾日本列島のなかで育まれた、独特なものがあるように思われる。その根底にあるのが、器物とヒトとの緊密な接触を通じての関係性である。そして、それがもっとも先鋭化したのが日本の喫茶のなかで成立した茶道具とヒトとの関係、なかでも茶碗とヒトとの関係だといっていいたいだろう。

茶道具の場合、かならずしも茶碗だけではないが、個体を識別し、名前をつけ、愛情または愛着を寄せる。視覚だけでは満足せず、掌^なに入れ、撫^なでて愛玩する。こうして視覚以外に触覚や重量感覚を動員した鑑賞態度ができあがる。先に述べた「手取り」の

感覚はその一要素となるのである。

(吉良文男『茶碗と日本人』問題作成上、一部を改変した)

(注1) 『大辞泉』 国語辞典のひとつ

(注2) 磁器 陶器より高温で焼かれた、ガラス質の堅いやきもの

(注3) 白磁 純白の磁器

(注4) ミロのヴィーナス 古代ギリシアの女神像のひとつ

(注5) ピエタ 聖母マリアがキリストの遺体を膝に抱いて嘆く姿を主題にした絵画や彫刻

(注6) お菜 おかず。副食物

(注7) 削り 焼く前に底の部分などの形や厚みを整える作業

(注8) 接吻 口づけ。キス

(注9) 茶味 茶の湯の味わい。風雅な趣

問一 傍線部分(ア)～(ウ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 1、

(イ) 2、(ウ) 3。

(ア) セン|索 ① 敵の陣地をセン|抛する

② 所セン|かなわぬ恋だった

③ ガスの元セン|を閉める

④ 飛行機が上空でセン|回する

⑤ セン|茶の味わいを楽しむ

(イ) シッ|器 ① シッ|黒の闇が広がる

② シッ|策を重ねてしまう

③ 上司のシッ|責を受ける

④ 重大なシッ|病を予防する

⑤ 院長が手術でシッ|刀する

(ウ) 抱ヨ|ウ ① 選挙の候補者をヨ|ウ立する

② 面ヨ|ウな技を使って戦う

③ 中ヨ|ウな態度を保つ

④ 勇気ある行動を称ヨ|ウする

⑤ 試合相手の動ヨ|ウを誘う

問二 空欄Aに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 4。

- ① 実収入 ② 副収入 ③ 給与収入 ④ 定期収入 ⑤ 現金収入

問三 傍線部分(1)「相対的な」とあるが、ここで相対的に捉えられているものは何と何か。本文中の語句で示したものとして、

最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 5。

- ① 「重い」と「軽い」
- ② 「話し手」と「器物」
- ③ 「予測」と「実感」
- ④ 「意識」と「無意識」
- ⑤ 「暗黙の前提」と「対象の重さ」

問四 傍線部分(2)「経験」とあるが、器を手取る経験と手取りの関係について述べたものとして、最も適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 6。

- ① 手取りは経験の少ない人でも持ちうる感覚だが、経験を積むほど、より意識的にその感覚を磨こうとするようになる
- ② 手取りは経験の少ない人にはない感覚で、十分な経験を通じて、器の色彩や造りの厚さから読み取れるようになる
- ③ 手取りは経験の少ない人にはない感覚で、経験が豊富でなければ、磁器の手取りは重いということがわからない
- ④ 手取りは経験の少ない人にはない感覚で、繰り返し経験を重ねなければ、手取りを感じ取る力が身につくことはない
- ⑤ 手取りは経験の少ない人でも持ちうる感覚だが、どのような経験を持つかに応じて、その感じ方に人による差がある

問五 傍線部分(3)「多くの日本人に染み込んだ行動様式」とあるが、本文の内容をもとに食事の際の行動様式を国ごとに比較し

て述べたものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 7。

① 西洋には、飲み物の器は口につけるが、それ以外の器は口につけないという作法がある。一方、日本や朝鮮半島には、飲み物以外でも碗は手に取って食事するという作法がある

② 西洋には、飲み物の器も食べ物物の器も口につけないという作法がある。一方、日本や朝鮮半島には、飲み物の器も食べ物物の器も手に取って口につけるという作法がある

③ 西洋や朝鮮半島には、飲み物の器は口につけるが、それ以外の器は口につけないという作法がある。一方、日本には、飲み物以外でも碗は手に取って食事するという作法がある

④ 西洋や朝鮮半島には、飲み物の器も食べ物物の器も口につけないという作法がある。一方、日本には、飲み物の器も食べ物物の器も手に取って口につけるという作法がある

問六 傍線部分(4)「洋画」、(5)「ペット」とあるが、本文において、洋画とペットの事例は何の例示として挙げられているか。

その説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 8。

① 何かを鑑賞するときの態度には日本と海外の国々の間で違いがあるということの例示

② 伝統的な日本文化では身体接触のありかたが他国と異なっていたということの例示

③ 触覚を通じて交流するときには唇で触れ合うこともひとつの要素になるということの例示

④ 人間は人や動物と肌で触れ合って関係を結ぼうとすることがあるということの例示

⑤ 昔に比べて今の日本人は相手の体に触れるのをいとわなくなったということの例示

問七 空欄Bに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 9。

- ① 鑑賞の対象 ② 擬人化の対象 ③ ペット ④ 個体 ⑤ 器物

問八 空欄Cに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 10。

- ① 重量感覚 ② 面的接触 ③ 間接交渉 ④ 鑑賞態度 ⑤ 相互認識

問九 傍線部分(6)および(7)の「普遍的な」は、本文においてそれぞれのどのような意味で使われているか。その意味の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 11。

- | | | | | |
|---|-----|-------------------------|-----|----------------------|
| ① | (6) | 「自分の身のまわりでよく見かける」という意味 | (7) | 「ある国の人にとって身近な」という意味 |
| ② | (6) | 「自分の身のまわりでよく見かける」という意味 | (7) | 「国ごとの文化を反映している」という意味 |
| ③ | (6) | 「自分の身のまわりでよく見かける」という意味 | (7) | 「国の違いを超えて見られる」という意味 |
| ④ | (6) | 「多くの物事にあてはまる特徴を持つ」という意味 | (7) | 「ある国の人にとって身近な」という意味 |
| ⑤ | (6) | 「多くの物事にあてはまる特徴を持つ」という意味 | (7) | 「国ごとの文化を反映している」という意味 |
| ⑥ | (6) | 「多くの物事にあてはまる特徴を持つ」という意味 | (7) | 「国の違いを超えて見られる」という意味 |

問十 傍線部分(8)「日本列島のなかで育まれた、独特なもの」に関する説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。

い。解答番号は 12。

- ① 身体的接触によって対象を擬人化することは日本以外にもあるが、その接触が緊密なあまり関係性が先鋭的になり、器に対する愛が生じているという状況は日本独特のものと思われる
- ② ペットやロボットが人間のように認識されることは日本以外にもあるが、いくら身近でも本来なら道具にすぎないものを、人間に近い存在と感ずる態度は日本独特のものと思われる
- ③ 人間でないものを人間に見立てることは日本以外にもあるが、目で見るだけでなく身体で直に触れ、人に接するようにしめめするという器の鑑賞のありかたは日本独特のものと思われる
- ④ 器物の一部を人間の身体になぞらえて表現することは日本以外にもあるが、もともと飲食の道具である器を、絵画や彫刻のように鑑賞の対象にするふるまいは日本独特のものと思われる
- ⑤ 鑑賞の対象を人に例えて表現することは日本以外にもあるが、人間ではないものを対象に、個体を識別したり名前をつけたりすることまでしてしまう文化は日本独特のものと思われる

二 次の文章は他人の行動をシニカル（冷笑主義的）な視点で捉えることについて述べたものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

シニシズムとは、簡単に言えば、他人の行動の動機について、ろくでもないものばかりを想定する態度を指します。人の心のかを覗くことはできないので、本人以外は（時には本人でさえも）それを想像するよりほかありませんが、そのさいにひどい動機ばかりを割り当てるのがシニシズムなのです。

（中略）

もっぱらカネ、地位、名誉、性欲といった語彙だけを使って他人の動機を解釈しようとする態度がシニシズムということになります。逆に言えば、シニカルな見方に立つと、対象となる人物が利他性や正義感、職業的使命感や信念に基づいて行動している可能性や、逆にたいした意図がなかったという可能性は無視されやすくなります。

（中略）

社会学者の仁平典宏^(注1)によれば、対価を求めることなく他者に何かを与える（贈与）的な行為（典型的にはボランティア活動）は、そこに隠された対価を暴露しようとするシニカルな解釈をししばし引き寄せると言います。単純化して言えば、（贈与）的行為を行っている者自身の主観的な解釈とは無関係に、「あいづらは善意で動いていると言っているが、実際には何かを対価として得ているに違いない」という発想から、その隠された対価（支援対象の支配、公金の横領、売名や自己満足など）を暴露しようとする動きを生じさせるのです。

さらには、ソーシャルメディアという場そのものが、シニシズムを引き寄せやすい性格をもつのもかもしれません。メディア史研究者の佐藤卓己は、特定の主義主張を広めるのではなく、自分自身の「A」を目的にする人間を「メディア人間」と呼んでいます。逆に言えば、それが自己「A」になるかどうかで自分の主張する内容を決めるといふ類の人物です。

こう聞くと、一部のインフルエンサーや迷惑系ユーチューバーなどがすぐに思い浮かぶかもしれません。しかし、ソーシャルメ

メディアで積極的に情報発信を行う人物は誰しも、大なり小なりこのメディア人間的特性をもっていると言ってよいでしょう。

B、自分自身をコンテンツにして切り売りしているということです。

(中略)

おそらく問題なのは、利他的な動機と利己的な動機を完全に別物としてしまう人間観でしょう。一つの行為に複数の動機が含まれることは当然にありうるからです。

全体としてみれば利己的な行動であつても、わずかに利他性が含まれることもあれば、**C** おおむね利他的な行動であつても利己的な動機が入り込んでいることはありえます。困っている人を助けたいが、かっこう 恰好をつけたいという見栄みえも含まれているというのはよくある話でしょう。「一〇〇%他人のため」という純粋な動機しか許されないのであれば、人間が他者に何かをなすことのできる範囲は著しく小さくなるはずです。**【I】**

(中略)

集団に対するシニシズムとは、別の言い方をすれば一種のステレオタイプです。(注4)つまり、「あの連中は自分たちのことしか考えない」という決めつけです。集団に所属する一人ひとりの個性や思想の違いは無視され、あたかも集団全体が一つの行動原理に従って行動しているかのように論じられてしまうのです。

たとえば、「(注5) Jリベラル」でも「(注6) 限界左翼」でも何でもよいのですが、私個人がいったんそういったカテゴリーに割り振られてしまうと、どれだけ一生懸命に考えて言葉を(ア) ツムぎ出そうとも、どれだけ長い時間をかけて調査をしようとも、その顔のないカテゴリーがカネや地位のために私の口を借りてしゃべっているだけということになってしまふのです。**【II】**

もつとも、(3) 全てのカテゴリーが受け入れられるわけではありません。ソーシャルメディア上で広まりやすいのは、多くの人びともともと漠然と抱いていたイメージを明確にしたカテゴリーということになるでしょう。**【III】** 言い換えれば、「あいつらはそういう連中だ」という先入観にうまく合致しないと、なかなか受け入れられないのです。

しかし、それゆえにそれらのカテゴリーは、それまでの見方を更新するものではありません。すでに抱かれているイメージを補

強するだけだからです。ここでは、それとは対照的な他者理解の方法として、社会学者の石岡丈昇^{（とものり）}による社会調査論を紹介したいと思います。

石岡はその調査において、フィリピンの首都マニラで貧困状態にありながらボクシングを続ける選手と一緒に生活するという^{（4）}参与観察の手法を用いています。ただし、石岡によれば、こうした調査において「マニラのボクサーとはどんな人びとなのか」という問いにこだわってはいけないと言います。収入や家族構成、出身地や学歴は確かに重要な情報だとしても、それらだけに意識をとられると参与観察の良さは活かせない。むしろ問うべきは「マニラのボクサーはどのような世界に^{（たいじ）}対峙し、日々を過ごしているのか」だということです。

たとえば、年間所得^{（い）}のソウガクが結果的に同じだとしても、毎月、同じ金額が入ってくるのが予想できる生活と、ある時期に大きめの金額を受け取れたとしても次にいつ収入があるのかが予測できないボクサーのような生活とでは、生活設計のしやすさが全く異なる。年間の所得額をみているだけではわからない、そういった生活のありようが一緒に生活するなかでみえてくるということです。**【Ⅳ】**

社会学者による参与観察とは全く異なりますが、ツイッターのようなソーシャルメディアは、他者にとっての世界のありようを垣間^{（かいま）}見せてくれることがあります。生まれたところも年齢も職業もジェンダーも異なる人が、日々の生活のなかで抱くちょっとした悩みや喜び、悲しみや驚き、さらには何とも形容しがたい感情を伝えるつぶやきからは、他者が対峙している世界の断片が伝わってきます。

もちろん、それによって他者を理解できるというわけではありません。ソーシャルメディア上に現れるのは、あくまで断片でしかなく、しかも他者にみせるための言葉や画像です。世界を正確に反映しているわけでは決してありません。さらに言えば、どこまで行っても他人は他人ですし、他者を理解したという思い込みは、かえって傲慢な態度につながってしまうことすらあります。それでも、境遇や立場の全く異なる人が、自分自身の言葉で生活を綴^{（つづ）}っているのを読むと、それまで私にはみえていなかった世界の側面がみえたように思えることがあります。コロナ禍における医療従事者の苦しみ、清掃員の立場からみた困ったゴミ、やっ

てくるエレベーターが満員のために車いす利用者がなかなか乗れない状況など、それらは以前であれば多くの人がとがみることのできなかつた世界の側面です。

別の言い方をすれば、ソーシャルメディア上では世界をより単純にしようとする力と、それに抗^{あらが}ってより複雑な側面をみせようとする力とがせめぎ合っていると言うこともできます。【V】

カテゴリー化はしばしば対立する集団を邪悪で利己的なモンスターのようにみせる一方、自分たちの側をその対極に位置する集団と位置づけ、それとの一体化を促すことで世界を単純化しようとします。それに対して上述したのは、個々人の目に映る世界となるべくそのままのかたちでみようとする、したがって世界の複雑さを理解しようとする試みです。

（津田正太郎『ネットはなぜいつも揉めているのか』問題作成上、一部を改変した）

（注1） ソーシャルメディア インターネットを利用した情報交流サービスの総称

（注2） インフルエンサー ソーシャルメディア上で人の思考や行動に大きな影響を与える人物

（注3） 迷惑系ユーチューバー 迷惑行為を繰り返す動画配信クリエーター

（注4） ステレオタイプ 型にはまった通念や考え方

（注5） Jリベラル リベラル派に対するネット上の安易な否定的ラベリング

（注6） 限界左翼 左翼に対するネット上の安易な否定的ラベリング

（注7） ツイッター ソーシャルメディアの一つである「X」の旧名称

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 13、

(イ) 14。

(ア) ツムぎ出そう

① キュウボウ生活に別れを告げる

② ビボウロクに書き留めておく

③ 敵の無線通信をボウジュする

④ ダツボウするほどの見事な腕前

⑤ 綿とポリエステルのコンボウのシャツ

(イ) ソウガク

① 大きな地震でコウソウビルが大きく揺れる

② ソウリヨクセンで勝利する

③ 新しい機械のソウサが難しい

④ 子どもの立場に立ってクウソウしてみる

⑤ 地域住民の間でソウドウが起きている

問二 傍線部分(1)「暴露」と類似した意味を持つ語として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 15。

① 暴動

② 展望

③ 拘束

④ 摘発

⑤ 視察

問三 傍線部分(2)「あいづら」と呼ばれているのはどのような人のことか。その説明として、最も適当なものを一つ選び、マ

クしなさい。解答番号は 16。

- ① メディア人間
- ② 公金の横領を行っている人
- ③ 売名や自己満足を得ようとする人
- ④ 自分自身のコンテンツを切り売りしている人
- ⑤ 対価を求めることなく他者に何かを与える行為を行っている人

問四 空欄Aに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 17。

- ① 宣伝 ② 犠牲 ③ 象徴 ④ 理解 ⑤ 否定

問五 空欄B、Cに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 18。

- ① B たとえば C 具体的には
- ② B 逆に C たとえば
- ③ B つまり C 逆に
- ④ B そのうえ C ただし
- ⑤ B ところで C そのため

問六 傍線部分(3)「全てのカテゴリーが受け入れられるわけではありません」とあるが、本文が示す受け入れやすいカテゴリーとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19。

- ① 先入観にうまく合致したイメージ
- ② 新しく発見されたイメージ
- ③ 経験的に示されているイメージ
- ④ 長い時間をかけて調べたイメージ
- ⑤ 個性や思想に違いを示したイメージ

問七 傍線部分(4)「参与観察の手法」の説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 20。

- ① 調査対象を客観的に観察して、データを収集する方法
- ② 条件を可能な限り統制して調査対象者を観察する方法
- ③ 特定の条件を作り出して、行動観察を行う方法
- ④ 調査者自身が調査対象である社会や集団に加わりながら、対象者の視点で資料を収集する方法
- ⑤ ある出来事が起こしやすい環境を人為的に作り出し、そこで起こる行動を観察する方法

問八 本文で述べている「参与観察」の例として、**不適当なもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

- ① 遠洋漁業の船に同行して、漁師の船上での喜びや驚きを理解する
- ② 海外の貧困家庭で共同生活して、子どもの学習支援ニーズについて理解する
- ③ ワオキツネザルの生息地に長期間生活し、子育ての仕方を理解する
- ④ 農家で生活を共にしながら農業に参加して、後継者問題を理解する
- ⑤ 伝統ある祭りの運営を実際に手伝いながら、どのように継承されてきたかを理解する

問九 この本文には次の一文が欠落している。本文中の【Ⅰ】～【Ⅴ】のどの箇所に補えばよいか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 22。

他者の目に映る世界をみようとすることで得られるそうした知識は、できあいのイメージをただ補強するだけのカテゴリー化とは対極的な位置にあると言ってよいでしょう。

- ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】 ⑤ 【Ⅴ】

問十 本文の内容に合致するものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は 23（解答欄一行に二つマークすること）。

- ① メディア人間は正義感や職業的使命感に基づいて行動している
- ② ソーシャルメディアには、これまでみていなかった世界の断片をみることができるといふ側面がある
- ③ ある集団を一括して新しいカテゴリーを割り振ると、その集団に対する新しい見方が与えられる
- ④ ソーシャルメディアはシニシズムを引き寄せやすい
- ⑤ 利他的な行動と利己的な行動を完全に区別すると、人が他者のために何かをする範囲が広がる

以降は選択問題です。表紙の【表】の指示に従っていずれか一つを選択し解答してください。
問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
選択問題を二つ以上解答した場合、得点にはなりませんので十分注意してください。

三ア 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

藤井誠一郎の『ごみ収集という仕事』（二〇一八年）には、清掃車でごみを集める人たちの仕事の様子が克明に描かれている。行政学の研究者である著者は、新宿区で二ヵ月のごみ収集の体験をしたあと、さらに七ヵ月働いた。ごみの量が最も多い年始も三日連続で働き、四季折々の作業も体験したので、ごみ収集について書く「権利」を得たと思った、と藤井は回想している。

（中略）

(1) ごみの廃棄とは、ものの所有権の放棄でもあり、想像力の放棄にもなりがちだ。だから、カセットボンベ、鋭利な金属片、ガラス片、人糞、焼き鳥の串、爪楊枝、血液のついた注射針など清掃者に直接危害を加えるものが処理されないまま捨てられやすい、と藤井は訴える。感染症のリスクもある。肉屋の前に捨てられた容器をプレス車に入れたとき、道路に肉汁と肉片が飛び出し、作業服にも付着する。「鼻を突くような臭い」が一日中消えない。ただ、清掃員は、自分の作業服から悪臭が取れないことよりも、住民にごみの汁がかかることを恐れる。

また、ある男性の清掃職員は、清掃車を見た親が子どもに「がんばらないと、あのようになる」と諭すのを聞いたという。女性の清掃職員は「おねーちゃん、臭くねーのか」と信号待ちの停車中に反対車線の車から言われている。

毎年のように「人減らし」が進み、民間委託が広がるという厳しい条件の中で、こうした偏見にもさらされつつ、清掃員は腰を曲げて仕事をする。水分を含んだ重いごみ袋で腰を痛めないようにみんなで腰痛防止体操してから車に乗り込む。携帯電話をいじる通行人にさえ、クラクションを鳴らさぬようにし、夏は灼熱のアスファルトの上で塩飴を舐め、大粒の汗を落とし、冬には凍結した道路で滑り出した清掃車を身を挺して止め、ごみを拾い集める。道路に清掃車をとめていると、高級車の運転手が怒鳴ることもある。

暗い面だけが描かれているわけではない。社会科学者である藤井の文章には明色にもじむ。昼休みに職員たちの行きつけの店を訪れると、「肉体作業で消耗したエネルギーを補給するために大盛りが提供される」。「清掃職員の活躍への感謝の意をこのよう

形で表現しているのだと痛感した」。独身者の多いマンションの「気が利く管理人さんは、作業員が収集しやすいように、小さなゴミ袋を四五ℓ入りの大きな袋に入れ直してくれ」る。仕事が終わって皆で体を洗うとき、話が弾み、信頼関係が生まれるとも言う。清掃職員たちを陰に陽に支える人は決して少なくない。

軽小型車で運ばれた圧縮されていないゴミは、いったんある場所に仮置きしてから、清掃工場に清掃車で運ぶ。この積み込み作業は、「誰に命令されるわけでもなく、清掃職員が自発的に手伝う」。清掃員にみられる不思議な団結力についても藤井はしばしば言及する。

私たちの生存のキバン^(ア)でありながら、忘れられがちな領域。ゴミを出すのは匿名だから、捨てられたものには、捨てた人間の

A そのままあらわれる。

ゴミには、生活者の潜在意識がもつともあらわれる。君がどういうゴミの捨て方をしているか教えたまえ、そうすれば君がどうい^(注1)う人間か言いあててみせよう。ブリア^(注1)ア^(注1)サヴァランが食べものではなく、ゴミに魅せられた人物だったとしたら、『ゴミの生理学』という書物の一節にこう書き残したかもしれない。だからこそ、ゴミを集める人びとに、古今東西これまで多くの人間が想像力を掻^かき立てられてきたことは容易に想像できるだろう。私もその一人である。

私は、屑拾^{くず}いの視線から日本の歴史の概観を試みたこともある。屑拾^{くず}いたちは、近世は身分制から、近代は経済競争社会から、剥^むがれ落ちたり、捨てられたりした。肥料として用いられる動植物の死骸や廃棄物についても、歴史的に考察してきた。分野も視角も異なるが藤井の抑制の利いた書物に強く惹^ひかれたのは、人間の生々^ししさがゴミの世界では否^ひ応^おなくあらわれでるからだと思う。ファシズムの時代に生きた思想家ヴァルター・ベンヤミンは、草稿の寄せ集めである『パサージュ論』のなかで、自分のなすべき仕事についてこう述べている。

この仕事の方法は文学的モニタージューである。私のほうから語ることはなにもない。ただ見せるだけだ。価値のあるものを抜き取ることはいつさいしないし、気のきいた表現を手に入れて自分のものにするかもしれない。だが、ボロ、くず——それら

の目録を作るのではなく、ただ唯一可能なやり方でそれらに正当な位置を与えたいのだ。つまり、そのやり方とはそれらを用いることなのだ。

私に「歴史の屑拾い」というテーマで何かを書かせようとしたのは、まずこの一節である。が、それだけではない。よく知られているように、ベンヤミンにボロや屑への関心をもたせたのは一九世紀フランスの詩人、シャルル・ボードレールであり、特に「屑拾いの酒」である。

屑拾いがやって来るのが見られる 首をふり

よろめき 壁にぶつかるその姿は まるで詩人のよう（宇佐美斉訳）

この屑拾いの描写を意識しながら、ベンヤミンは『パサージュ論』でこう注釈めいたコメントを残している。「屑屋のぎくしゃくした歩き方は、必ずしもアルコールの影響によるわけではない。なぜなら、彼はいつも立ち止まって屑を拾い、それを背負い（⁽¹⁾）カゴに投げ込まなくてはならないからだ」。

ボードレールの詩を媒介にしてベンヤミンが考えたことは、おそらく、屑拾いが、歴史叙述の対象としてばかりではなく、歴史叙述のモデルとしても魅力的であるということだろう。⁽³⁾

それを私なりに言い換えてみたい。

よく指摘されるように、歴史は、危機の時代の勝者や生存者によってしか描かれてこなかった。危機の時代の敗者や死者は、歴史を語る口を封じられる。しかし、戦争の勝者しか歴史を書けない、という通俗的な見解と私の見解は異なる。多くの場合、打ち捨てられた人間は、歴史の泥沼に沈む。そこには、未遂の試みも分断されたまま深く沈んでいて、その中から再利用可能なものを探すのはおろか、「正当な位置」を与えることも困難である。

ベンヤミンによれば、⁽⁴⁾歴史学という学問ではこの試みは難しい。なぜなら、「歴史学の構成は軍隊の秩序になぞらえられる。つまりそこでは真の生が^(注2)苛まれ兵舎に入れられる」からだ。歴史学は「一切を抽象化してしまう『感情移入』を要求する」。つまり、史料収集によって、歴史の泥沼に落とされた断片を一つ一つ拾い上げ、目録を作ることができるが、それらを軍隊的な秩序のもと、大きな構成の部分に埋め直して、断片の生を窒息させてしまう、というわけだ。

私もそうやって歴史を書いてきた。これまで発見時に最も興奮した史料の一つは、ハーメルンの市立文書館に所蔵されているものである。一九三四年九月三〇日に開催された国家行事である収穫感謝祭で、参加者が書いた絵葉書であった。裏には「ちょうどいま、ヒトラーが話し始めたところだ、」と、総統の演説が始まった直後にコンマで葉書の文を終えていた。収穫感謝祭での聴衆の興奮が伝わる史料であるが実は興奮していない人たちもいた、という文脈で私はこの史料を紹介した。論理の流れに埋め込まなければ、整理されず、読者の頭に入りにくいからだ。

B、もっと手綱を緩めてそれらの断片的な史料を読者の頭の中で律動させることはできないだろうか。⁽⁵⁾コンマの意味をもっと深掘りできないだろうか。ベンヤミンは歴史叙述者を挑発しているように思える。

それにしても、ベンヤミンが目を奪われた屑拾いの「ぎくしゃくした歩き方」が、なぜ「歴史学」のふるまいと対峙^{たいじ}できるのだろうか。

大事なものは身振りだ。屑拾いは、目線を下に向け、屑を探す。屑を背中のカゴに投げ入れる。C、いちいち立ち止まる。目線を下に向けたまま前に進むことは難しい。目線が下では先を見通せない。パリという都市の全体像を知ることが困難だろう。だが、捨てられたものをじっと観察する屑拾いは、下を向いて歩くことで、誰も到達できないあることに通暁する。屑の性質を見極めることで、再生可能なものが出やすい場所を熟知していく。それは、捨てる人間の性質も知っていなければ、できる芸当ではない。さらに腕のいい屑拾いは、季節ごとの物と人の流れと性質をどんなバリ市民よりも知っている。そんな、地べたに捨てられたものの知からぎくしゃくした身振りで歴史を組み立て直すことを、私はこの書物でやってみたいと思う。

（藤原辰史『歴史の屑拾い』問題作成上、一部を改変した）

(注1) ブリア＝サヴァラン フランスの法律家、美食批評家(1755～1826)

(注2) 「歴史学の構成は軍隊の秩序になぞらえられる。つまりそこでは真の生が苛まれ兵舎に入れられるのだ。これに対して、挿話とは街頭蜂起である。挿話は事態を空間的にわれわれの方にぐっと引き寄せ、われわれの生のなかに立ち入らせる。一切を抽象化してしまう「感情移入」を要求する歴史学と、挿話は鋭い対照をなす。」

(ヴァルター・ベンヤミン『パサージュ論』)

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 51、

(イ) 52。

(ア) キバン

① 放送衛星がキドウに乗る

② 事実は小説よりキなり

③ 会社のフウキを乱す行為

④ 改革のキが熟す

⑤ 国の支援でキキンを設立する

(イ) カゴ

① ロウジョウして援軍を待つ

② 砂上のロウカクの史話

③ 漢詩をロウエイする

④ 寺院にカイロウを巡らす

⑤ 努力がトロウに終わる

問二 傍線部分(1)「ごみの廃棄とは、ものの所有権の放棄でもあり、想像力の放棄にもなりがちだ」とはどのようなことか。そ

の説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 53。

- ① 危険物をそのまま捨ててしまうのは、ごみの処理の仕方を積極的に知ろうとしないことでもあるということ
- ② 所有物をただのごみと見なせるようになるためには、ものにまつわる想い出をしばしば忘れ去る必要があるということ
- ③ 多くの人は所有物を手放した途端に、それがどのようにして処理されるのかを考えようとしなくなるということ
- ④ ごみはすでに清掃員の所有なので、捨てた人が処理の仕方まで想像をめぐらせることはあまりしないということ
- ⑤ 大切にしていたものがどのように処理されるのかを想像しないからこそ、きっぱりと捨てられるということ

問三 空欄Aに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 54。

- ① 性別も年齢も
- ② 喜びも悲しみも
- ③ 卑しさも善良さも
- ④ 職業も家族構成も
- ⑤ 思想も立場も

問四 傍線部分(2)「否応なく」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 55。

- ① 誤りなく
- ② 意に反するように
- ③ 否定の反応として
- ④ 有無を言わずに
- ⑤ 推し測ることなく

問五

傍線部分(3)「歴史叙述のモデルとしても魅力的である」とあるが、屑拾いの何を「魅力的である」と筆者は推察したのか。その具体的な内容として、適当なものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は 56 (解答欄一行に二つマークすること)。

- ① 捨てられた断片を拾い上げていくこと
- ② 屑拾いの姿に詩的な様子が見て取れること
- ③ 屑拾いの生活は人間の生々しさをあらわしていること
- ④ 屑拾いが酒に酔ってぎくしゃくしつつも屑を探していること
- ⑤ 前を向いて歩いていくのではなく、下を向き、立ち止まり、あたりを探すこと

問六

空欄B、空欄Cに入る語句として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。空欄Bの解答番号は 57、空欄Cの解答番号は 58。

- | | | |
|-----|--------|-------|
| 空欄B | ① しかし | ② つまり |
| | ③ もちろん | ④ しかも |
| | ⑤ すなわち | |
| 空欄C | ① むしろ | ② だから |
| | ③ ところで | ④ 例えば |
| | ⑤ ただし | |

問七

傍線部分(4)「歴史学という学問ではこの試みは難しい」とあるが、「この試み」が指示する内容として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 59。

- ① 打ち捨てられた人間の語り出す声に筋が通るようにすること
- ② 生存者の語る声に正当に耳を傾け、歴史叙述に役立てること
- ③ 危機の時代において誰が勝者で誰が敗者かを見分けること
- ④ 断片的な史料から再利用可能なものを探し出して、秩序を与えること
- ⑤ 歴史の泥沼に沈んだ人間を拾い出して正当な位置を与えること

問八 傍線部分(5)「コンマの意味をもっと深掘りできないだろうか」と自問する筆者が、歴史叙述者として「深掘り」にふさわ

しいと考えている姿勢は次のうちのどれか。その説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

60。

- ① 汗を流し、腰を曲げて仕事をしている清掃員たちへの偏見を拭い去るためにも、作業状況を丹念に描かなければならない
- ② ごみは生存の土台でありながら出すときは匿名だから、所有権の放棄についても想像力を働かせて説明していかなければならない

- ③ 史料から価値あるものを抜き取ったり、気の利いた表現で捉えたりするだけでなく、正当な位置も与えるようにしなければならぬ

- ④ 収集した史料を、歴史を構成する部分として活用しようとするのではなく、生活者の真の生のあらわれとして取り扱わなければならない

- ⑤ 収穫感謝祭で興奮しなかった人たちがいたかどうかを読者に考えさせるためにも、史料は整理しないまま紹介しなければならない

問九 本文の内容に合致するものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は 61 (解答欄一行に二つマークすること)。

- ① 清掃員たちの不思議な団結力は、陰に陽に支えてくれる人たちとの信頼関係を範にして生み出された
- ② ごみに魅せられた人物ならば、ごみの捨て方によって、捨てた人がどのような人間なのかを言いあてることができる
- ③ 文学的モニタージュとは歴史の泥沼に沈んだ断片の生を論理の流れに埋め直すことなく、それらを用いて見せる方法である
- ④ 打ち捨てられた人間の史料から再利用可能なものを探し出すのが困難だったため、歴史学は敗者や死者を魅力的に叙述し
てこなかった

- ⑤ 屑拾いの身振りでは都市の全体像を見渡せないが、それぞれの人間の、その時々々の生活を感じし熟知することはできる

三イ 次の文章は『源氏物語』の一節である。光源氏の息子である夕霧は、内大臣によって雲居雁との仲をさかれたが、祖母大宮のはからいで雲居雁と対面した。これを読み、後の問に答えなさい。

かたみにもの恥づかしく胸つぶれて、ものも言はで泣きたまふ。^(注1)「大臣の御心のいとつらければ、^(注2)さばれ、思ひやみなむと思へど、恋しうおはせむこそ理なかるべけれ。⁽²⁾」などて、すこし隙ありぬべかりつる日ごろ、よそに隔てつらむ」とのたまふさまも、いと若うあはれげなれば、「まろも、さこそはあらめ」⁽³⁾とのたまふ。「恋しとは思しなむや」とのたまへば、すこしうなづきたまふさまも幼げなり。

御殿油まゐり、殿まかでたまふけはひ、⁽⁴⁾こちたく追ひののしる御前駆の声に、人々、^(注3)「そそや」など怖ぢ騒げば、いと恐ろしと思してわななきたまふ。⁽⁵⁾さも騒がればと、ひたぶる心に、ゆるしきこえたまはず。^(注4)御乳母参りてもとめたてまつるに、⁽⁷⁾気色を見て、「あな心づきなや。げに、宮知らせたまはぬことにはあらざりけり」と思ふにいとつらく、「いでや、うかりける世かな。殿の思しのためふことはさらにも聞こえず、⁽⁸⁾大納言殿にもいかに聞かせたまはむ。めでたくとも、^(注7)ものはじめの六位宿世よ」とつぶやくもほの聞こゆ。ただこの屏風の背後に尋ね来て嘆くなりけり。男君、我をば位なしとはしたなむるなりけりと思すに、世の中恨めしければ、⁽⁹⁾あはれもすこしさむる心地してめざまし。⁽¹⁰⁾「かれ聞きたまへ、

A ^(注8)くれなるの涙にふかき袖の色をあさみどりと言ひしをるべき
恥づかし」⁽¹¹⁾とのたまへば、

B いろいろに身のうきほどの知らるるはいかに染めける中の衣ぞ
^(注10)とものたまひはてぬに、殿入りたまへば、わりなくて渡りたまひぬ。

(注1) 大臣 内大臣。雲居雁の父。雲居雁の東宮入内を期待していた。後述の「殿」も内大臣を指す

(注2) さばれ 「さはあれ」が変化した表現。どうにでもなれ、という気持ちを表す

(注3) そそや それお帰りだ、の意

(注4) 御乳母 雲居雁の乳母

(注5) 宮 大宮。夕霧と雲居雁の祖母。雲居雁は大宮のもとに預けられて育ち、いところで幼なじみの夕霧と相愛の仲になった

(注6) 大納言殿 按察大納言。雲居雁の母の再婚相手

(注7) もののはじめの六位宿世よ せっかくのご結婚のお相手が、六位ふぜいとは、の意。光源氏の教育方針で、夕霧は六位にとどめられていた

(注8) くれなゐの涙 血の涙。悲しみの果てに流す涙のこと

(注9) あさみどり 緑がかった薄い藍色。六位の男性の上衣の色

(注10) 中の衣 上着と下着の間に着る衣。男女の仲を重ねていう

問一 傍線部分(1)「な」、(3)「め」の文法的説明として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は

(1) 76、(3) 77。

- | | | | | | |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| (1) | ① 打消の助動詞 | ② 強意の助動詞 | ③ 推量の助動詞 | ④ 係助詞の一部 | ⑤ 終助詞の一部 |
| (3) | ① 意志の助動詞 | ② 打消の助動詞 | ③ 完了の助動詞 | ④ 接尾語 | ⑤ 助詞の一部 |

問二 傍線部分(2)「などて、すこし隙ありぬべかりつる日ごろ、よそに隔てつらむ」の解釈として、最も適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 78。

- ① ここに通って逢^あっている日々の様子を少しでも見られていたら、もっと遠くの屋敷に移されるのではないか
- ② 最近の二人の間柄に少々疑いをもたれていたようだから、そのせいで引き裂かれたのではないか
- ③ 長い間ほんの少しも離れることはなかった二人なのに、なぜ引き離されてしまったのだろうか
- ④ 少しは逢える機会のあったはずの日々を、どうしてよそよそしく逢わずに過ごしてしまったのだろうか
- ⑤ これまでの日々においても少々考える時間はあったが、不思議と自分ごととして受け止められなかったのだ

問三 傍線部分(4)「こちたく」、(5)「わななき」、(10)「めざまし」の本文中の意味として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、

マークしなさい。解答番号は(4) 79、(5) 80、(10) 81。

- | | | | | | |
|------|-----------|---------|---------|----------|---------|
| (4) | ① ものものしく | ② 耐えがたく | ③ すばやく | ④ 無理矢理に | ⑤ 下品に |
| (5) | ① 気が遠くなつて | ② 涙を流して | ③ ふるえて | ④ 大声をあげて | ⑤ 逃げ回って |
| (10) | ① じつと見つめる | ② 気が晴れる | ③ すばらしい | ④ 不愉快である | ⑤ 目がさめる |

問四 傍線部分(6)「さも騒がればと、ひたぶる心に、ゆるしきこえたまはず」とは、誰がどのような様子であることを言っているのか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 82。

- ① 世間の人々がこんなにも騒いでいるのが恐ろしく、ひどく不安になって体をこわばらせている雲居雁の様子
- ② この状況を父である内大臣に見つかり騒ぎになったらどうしようと、心配のあまり周囲の声が聞こえなくなっている雲居

雁の様子

- ③ 人々がこれほど騒ぐのであるから内大臣の怒りは相当のものだと気づき、自分のこれまでの行いを悔やんでいる夕霧の様子
- ④ この状況を見とがめられて騒がれるならそれでも構わないと、一途に思いつめて雲居雁を部屋に戻さないでいる夕霧の様子
- ⑤ 世の中を騒がせたことにより家に悪い評判が立ったことが許せず、夕霧の浅はかな行動を非難している内大臣の様子
- ⑥ このような騒ぎを引き起こしてしまった娘を気にかけてつも、その願いを聞き入れることはできないと思う内大臣の様子

問五 傍線部分(7)「たてまつる」、(11)「のたまへ」は、それぞれ誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものをそれぞれ一つ

選び、マークしなさい。ただし、同じ番号を複数回解答してもよい。解答番号は(7) 83、(11) 84。

- ① 夕霧 ② 雲居雁 ③ 内大臣 ④ 大宮 ⑤ 乳母 ⑥ 東宮 ⑦ 大納言

問六 傍線部分(8)「さらにも聞こえず」の解釈として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 85。

- ① まったくお耳に入らず
- ② まったくご理解なさらず
- ③ まったくお聞かせできず
- ④ まったく申し上げるまでもなく
- ⑤ まったく知られることなく

問七 傍線部分(9)「あはれもすこしさむる心地」とは、誰のどのような気持ちを述べたものか。最も適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 86。

- ① 乳母が自分との約束を守らなかったことがうらめしく、世の中のすべてに裏切られた気がして、希望が失われたように感じている夕霧の気持ち
- ② 夕霧との関係が、内大臣や大納言にまで知られてしまったことがうらめしく、長年慕ってきた乳母への愛情も少し失われたように感じている雲居雁の気持ち
- ③ 自分の位に対する陰口を雲居雁にも聞かれてしまったことがうらめしく、このことで雲居雁が心変わりするのではないかと心配している夕霧の気持ち
- ④ 信頼していた乳母までもが夕霧に不満を持っていることを知り、世間に味方がいないのがうらめしく、初恋の相手の夕霧の好意も勘ぐってしまう雲居雁の気持ち
- ⑤ 自分の位を低いといって乳母が恥をかかせているのだと思うと、この世のすべてがうらめしく、雲居雁への恋心も少し薄れるように感じている夕霧の気持ち

問八 本文中の和歌A・Bについて述べたものとして、**適当でないもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 87。

- ① Aの和歌では、夕霧の雲居雁への苦しい恋心が詠まれている
- ② Aの和歌では、夕霧が、自分の位に関する乳母の誤解を正している
- ③ Aの和歌では、色彩に関する言葉が対照的に用いられている
- ④ Bの和歌では、雲居雁の、おのれの身の不運を嘆く思いが詠まれている
- ⑤ Bの和歌は、Aの和歌に対して自分こそ色々と悩んでいると応えている

問九 本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 88。

- ① 雲居雁のお付きの女房は、二人の姿を見て同情のあまり涙を流した
- ② 内大臣は夜の間は内裏にいたが、翌朝すぐに内裏を退出した
- ③ 大宮は、二人の関係を雲居雁の乳母だけには知らせていた
- ④ 雲居雁の乳母は、夕霧を身分が低く品性も下劣だと評価した
- ⑤ 内大臣が屋敷に入ったので、雲居雁は仕方なく自室に戻った

三ウ 次の文章を読み、後の問に答えなさい（設問の関係上、訓点を省いた部分がある）。

余向^{（注3）}不^レ喜^{（注1）}武夷^{（注1）}茶^{（注1）}嫌其濃苦如飲藥。然^{（注2）}丙午^{（注2）}秋、余遊^{（注2）}武夷^{（注2）}。
到^{（注3）}曼亭^{（注3）}峰^{（注4）}・天游寺^{（注4）}。諸処^{（注6）}僧道争^{（注6）}以^{（注6）}茶献^{（注6）}杯。小如^{（注6）}胡桃^{（注6）}、壺小^{（注6）}。
如^{（注5）}香櫟^{（注5）}、每^{（注5）}斛^{（注5）}無^{（注7）}一兩^{（注6）}。上^{（注6）}口^{（注2）}不^{（注8）}忍^{（注8）}遽^{（注8）}咽^{（注8）}、先嗅^{（注8）}其香^{（注8）}、再試^{（注8）}其味^{（注8）}。
徐徐^{（注8）}咀^{（注8）}嚼^{（注8）}而体^{（注7）}貼^{（注7）}之^{（注7）}。果然^{（注8）}清芬^{（注8）}撲^{（注8）}鼻^{（注8）}、舌^{（注8）}有^{（注8）}余甘^{（注8）}、一杯^{（注9）}之後、
再試^{（注9）}一二杯^{（注9）}。令^{（注10）}人积^{（注10）}躁^{（注10）}平^{（注10）}矜^{（注10）}、怡^{（注10）}情悦^{（注10）}性^{（注10）}。始^{（注10）}覚^{（注10）}龍井^{（注10）}雖
清而味薄矣、陽^{（注10）}羨^{（注10）}雖佳而韻遜^{（注10）}矣。頗^{（注10）}有玉与水晶^{（注11）}品格不
同之故^{（注6）}。故^{（注6）}武夷^{（注6）}享^{（注6）}天下^{（注6）}盛名^{（注6）}、真^{（注6）}乃不^{（注6）}忝^{（注6）}。且^{（注8）}可以^{（注8）}瀹^{（注11）}至三
次、而其味猶未^{（注11）}尽^{（注11）}。

(注1) 武夷 武夷山。福建省北部にある山で、茶の産地として知られる

(注2) 丙午 乾隆五十二年、西暦一七八六年

(注3) 曼亭峰 武夷山の峰の一つ

(注4) 天游寺 寺の名

(注5) 香櫞 レモンに似た柑橘類

(注6) 両 重さの単位。この時代、一両は約三十七グラム

(注7) 体貼 じっくり吟味する

(注8) 清芬 清らかなかおり

(注9) 龍井 浙江省の地名。龍井茶の産地として知られる

(注10) 陽羨 江蘇省西南部の地名。茶の産地として知られる

(注11) 淪 茶を淹れる

問一 傍線部分(1)「嫌其濃苦如飲藥」に付ける返り点として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

101。

① 嫌_三其濃苦_二如飲_レ藥

② 嫌_二其濃苦_一如_レ飲_レ藥

③ 嫌_二其濃苦_一如_レ飲_レ藥

④ 嫌_三其濃苦_二如飲_レ藥_一

⑤ 嫌_二其濃苦_一如_レ飲_レ藥

問二 傍線部分(2)「不忍遽咽」とあるが、なぜすぐに飲み込めなかったのか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解

答番号は 102。

- ① 武夷のお茶はあまりにも苦くて匂いも強く、じっくり味わうことができないから
- ② 武夷のお茶は味も香りもよく、口の中でじっくり味わってから飲むほうがよいから
- ③ 寺で出されたお茶は甘味が強すぎて、飲むに耐えられないほどおいしくなかったから
- ④ 天下に名だたる武夷のお茶は極めて高級品で、すぐに飲むにはもったいなかったから
- ⑤ 武夷山に赴任したときに飲んだお茶は少ししかなく、一気に飲み干すのが惜しかったから

問三 傍線部分(3)「令」の用法として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 103。

- ① 使役 ② 受身 ③ 命令 ④ 仮定 ⑤ 抑揚

問四 傍線部分(4)「龍井雖清而味薄矣」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 104。

- ① 龍井のお茶だけが、見た目が清らかでかつ味が薄い
- ② 龍井のお茶ならば、見た目が清らかで味が薄いはずだ
- ③ 龍井のお茶だったら、見た目が清らかで味は薄いだろう
- ④ 龍井のお茶は見た目は清らかではあるけれども、味は薄い
- ⑤ 龍井のお茶は味は薄いけれども、見た目は清らかなはずだ

問五 傍線部分(5)「有玉与水晶、品格不同之故」の書き下し文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号

は 105。

- ① 玉と水晶、品格同じからざるの故有り
- ② 玉の水晶と、品格同じからざるの故有り
- ③ 玉と水晶と、品格同じからざるの故有り
- ④ 玉は水晶と与^{とも}に、品格同じからざるの故有り
- ⑤ 玉は水晶に与^{くみ}して、品格同じからざるの故有り

問六 傍線部分(6)「故」、(7)「且」の読みとして、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(6) 106、

(7) 107。

- (6) ① よりて ② ゆえに ③ もとより ④ いにしえ ⑤ ことさらに
- (7) ① それ ② もし ③ かつ ④ まさに ⑤ しばらく

問七 傍線部分(8)「可以淪至三次、而其味犹未尽」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

108。

- ① お茶を三回淹^いれなければ、その味を極めたことにはならない
- ② お茶を三回淹れてみて、やっとその味を極めることができる
- ③ お茶を三回淹れてみると、その味は尽きることがないようだ
- ④ お茶を三回淹れてみて、その味はまだ尽きていないようだ
- ⑤ お茶を三回淹れても、その味はやはりまだ尽きることがない

問八

本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

109

。

- ① 武夷のお茶は僧侶たちが好んで飲むもので、一般の人が飲むべきお茶ではない
- ② 武夷のお茶は味も香りも劣るのに、なぜ天下の銘茶とされているのか不思議だ
- ③ 武夷のお茶は味も香りも素晴らしいが、やはり龍井や陽羨のお茶にはかなわない
- ④ 武夷のお茶は味も香りも素晴らしく、天下の銘茶とされるのももっともなことだ
- ⑤ 武夷のお茶は味と香りをしっかり味わってから飲んでこそ、本当の茶人と言える